

身近なユニバーサルデザイン

まちの中や普段何気なく使っているものにもユニバーサルデザインがいっぱい。
みんなが公平に使える、みんなにわかりやすい、みんなが楽に使える、使いやすい方を選べるなど、思いやりを形にしたユニバーサルデザインの一例を紹介します。



乗り降りが楽なノンステップバス



段差のない出入り口



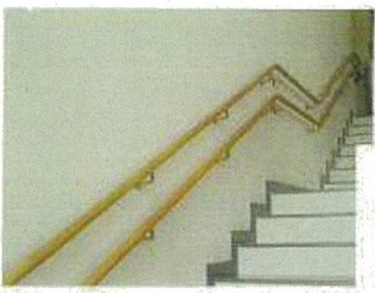
誰もが利用しやすい多目的トイレ



わかりやすい標示



商品が取り出しやすい自動販売機



使いやすい方を選べる手すりや水飲み器



誰もが参加しやすい講演会(要約筆記・手話)

ユニバーサルデザイン

心のユニバーサルデザイン

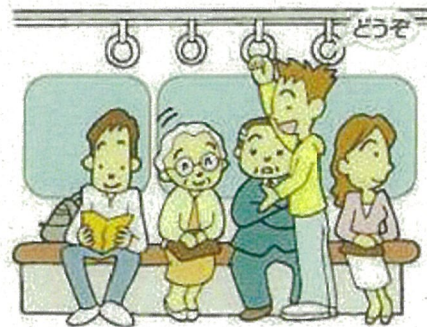
大切なのはお互いを理解し、思いやる心



相手の立場になってのちょっとした心づかい、コミュニケーションを大切にしてみんなで支えあいましょう。

高齢者への心づかい

年をとると視力や聴力、体力など身体の機能が低下していきますので、心づかいが必要です。
お年寄りと話ときは、大きく口を開けて、ゆっくりと話しましょう。
電車やバスの中で立っているお年寄りを見かけたら、声をかけて席を譲りましょう。



妊娠しているがた・赤ちゃん連れのがたへの心づかい

電車やバスの中で立っている妊婦を見かけたら、声をかけて席をゆずりましょう。
赤ちゃん連れで困っている様子を見かけたら、声をかけて手助けしてあげましょう。



障害のある方への心づかい



困っている様子を見かけたら、まず、声をかけましょう。

「何かお困りですか。」

「お手伝いすることがありますか。」

本人の意志と自立を尊重して、手助けが必要かどうか、何をしたらよいか、どのような方法がよいか聞きましょう。

車いすに乗っている方のお手伝い

車いすの介助は、場合によってはかえって迷惑になったり、無理をすると危険を伴うこともありますので、注意しましょう。

また、車いすに乗った感覚を実際に経験しておく、介助をする際に役に立ちます。



周りの人たちと協力しましょう。

キャスター上げ



耳の不自由な方とのコミュニケーション

「耳の不自由な方」＝「手話」と思いがちですが、中途失聴などで手話ができない方もあります。手話以外にも、筆談、読話（相手の口の動きを読みとる方法）など、いろんな方法で「会話」をしましょう。



耳の不自由な方は、窓口などで自分の名前を呼ばれてもわからないことがあります。手招きをしたり、肩をたたいたりして知らせあげましょう。

目の不自由な方の誘導



話しかけるときは、正面から声をかけましょう。

誘導するときは、腕を軽くつかんでもらうか、肩に手をかけてもらいましょう。同じ方向に向いて歩調を合わせるようにします。

状況を説明し、声をかけながら誘導します。危ないときでも、大声で叫んだり、黙って腕を引っ張ってはだめです。軽く体に触れて動きを止めてから、状況を説明しましょう。



補助犬を連れてくる方に出会ったら

補助犬はペットではありません。目の不自由な方を誘導したり(盲導犬)、物を運んだり(介助犬)、ブザーや電話の呼出音を伝えたり(聴導犬)するために訓練されています。

胴輪(ハーネス)をつけている補助犬は仕事ですので、さわったり、声をかけたり、食べ物を与えたりしないでください。



補助犬は厳しく訓練されているので、ほえたり、噛みついたりしませんし、排せつも厳しくしつけられているので、レストランなどにおいても心配ありません。

